

# 種 豚 直 接 検 定 試 験

荒 岳 義

(大分県農業技術センター)

ARATAKE, T,

Study on the direct authorization of breeding pig

## 目 的

種豚の育種改良事業は従来成熟時体型及び後代検定によって実施されてきたが、此の方法のみだと非常に時間がかかることから、後代検定に比較して検定精度は劣るが能力の早期判定に非常に有利な直接検定方法について試験を実施した。

## 検定試験方法

### I. 試 験 豚

後代検定済豚から生産された子豚または血統が明確で体型、資質の優れた種豚から生産された子豚を供試した。

### II. 検 定 方 法

a. 産肉能力検定実施要領に準じて体重20~90kgまで運動場付き直接検定豚舎にて飼養管理し、体重70kg, 80kg, 90kg時において背脂肪層の厚さを測定した。

b. 体重90kg到達後、体格審査、肢蹄の状況、繁殖能力(生殖器の発育、性欲の状況)等を調査し種豚としての適格性を判定した。

c. 体重90kg到達後、種豚として適格と判定したものは2か月間の飼い直し後種豚として利用した、

### III. 判 定 方 法

#### a. 項目別判定基準(ランドレース種)

項 目	A	B	C	D	E
1日平均増体量(g)	670	640	590	560	550以下
飼料要求率(以内)	3.20	3.40	3.60	3.80	3.81以上
背脂肪の厚さ(平均)(cm)	2.40	2.60	2.90	3.10	3.20以上

#### b. 項目別係数表

項 目	点 数	係 数	最 高 点
1日平均増体量	1~5	3	15
飼料要求率	1~5	2	15
背脂肪層の厚さ	1~5	2	10

## c. 総合判定区分

区分	総合名数	区分	総合点数	区分	総合点数
A	29~35	B	24~28	C	19~23
				D	~18
				E	7~11

## VI. 結 果

### 1. 検定成績

1日平均増体量					飼料要求率					背脂肪の厚さ				
A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
4	12	13	3	6	4	6	10	11	7	35	3	0	0	0

2. 肢蹄の不良(6頭), 3. 生殖器の不良(2頭)

4. 体型不良(1頭)

### 5. 総合判定成績

区 分	総合得点	頭 数	ス ポ イ ル	不 合 格	合 格 豚
A	29~35	6	1	0	5
B	24~28	16	2	0	14
C	19~23	11	1	3	7
D	12~18	5	0	5	0
E	11以下	0	0	0	0

### 6. 検定雌豚の繁殖状況

産次	腹数	有効生時子豚			3 週 齢 時			育成率 (%)	
		子豚数	1腹平均	平均体重	腹数	子豚数	1腹平均		平均体重
1	15	162	10.8	1.470	14	134	9.5	5.100	88.1
2	3	29	9.7	1.500	3	22	7.3	5.200	75.9
3	8	94	11.7	1.490	8	73	9.7	7.230	77.7
4	4	38	9.5	1.610	4	31	7.7	6.220	81.6
5	1	14	14.0	1.300	1	9	9.0	5.400	64.3
6	1	9	9	1.200	1	8	8.0	5.500	88.9
計	32	346	10.8		31	277	8.9		

## V考 察

不合格豚の内容は増体、飼料要求率、肢蹄の軟弱等が主体であったが、肢蹄の軟弱なものについては素質(遺伝)的なもので検定によるスポイルとは思われなかった。背脂肪層の厚さについては70kg, 80kg時については特に差がなかった。

以上のことから種豚の直接検定の場合90kg時での検定成績で判定すれば特に問題はないと思われた。